坂ちゃんと中村雅俊
ふれあい・たすけあい
トーク＆ライブ　レポート

2012 年 12 月 3 日（月）メルパルク NAGANO ホールにて、全労済の特別協賛による、東日本大震災支援のためのチャリティイベントが開催されました。ゲストは被災地である宮城県女川町出身の中村雅俊さん。SBCパーソナリティの坂ちゃんこと坂橋克明さんとのトークショーと、中村雅俊さんのライブという2部構成のイベントに、参加者 700 名の募集に対して 3,500 名の応募がありました。なかには「はがき 10 枚出してようやく当たったの」という方もいらっしゃいました。会場のメルパルクホールは、開場と同時に静かな熱気に包まれました。

長野には何度も来ているという中村さん。「以前コンサートで訪れた際に、声が出なくなって公演をキャンセルしてしまったことが今でもうしろめたいんです」と告白。その時のコンサートに来ていたファンの方も、会場にはたくさんいらっしゃいました。また、初めて訪れたのは大学時代、野尻湖での合宿だったそう。広い草原で仲間が落としてしまったコンタクトレンズを、奇跡的に中村さんが見つけた！という想い出のエピソードを披露してくれました。

坂ちゃんが被災地で撮影してきた写真をスクリーンに投影しながら、震災時の衝撃についてトークが始まりました。3/11 の震災当日は府中で撮影をしていたという中村さん。「電車がみんな止まってしまったので『大変なことが起きた』とは思ったけれど、ここまで大きな被害だったとは、新聞で見て驚いたんです」。しかし実際に被災地へ行ってみると、さらに言葉が出ないほどショックを受けたといいます。「女川の町、自分の記憶の中にはっきりあるはずの場所、角の郵便局、旅館があった場所すら、ぜんぜん思い出せない。全て壊されていた。体験したことはないけれど、『空襲の後』のような感じでした」。

そして、これまで中村さんが活動されてきた被災地支援について、画像とともに紹介。

●4/1　ジャッキー・チェンに呼ばれて香港でのチャリティコンサートに出演。現地で放映されヒットチャート 1 位を獲得したドラマの主題歌「俺たちの旅」を皆で歌う。「香港の全メディアが同時中継したんですよ。これはすごいことです」

●4/14　ご自身が名誉館長を務め、津波で倒壊しなかったマリンパルという施設の建物に、「女川の街は俺たちが守る!!　中村雅俊」という垂れ幕を掲出。

●4/18　オールナイトニッポン公開生放送で、吉田拓郎さん、坂崎幸之助さんとともにスペシャルライブ開催。「全部抱きしめて」を皆で歌った。「拓郎さんは宮城出身の僕を心配して、いち早くメールをくれたんです」

●4/29　石巻イオンでのアコースティックライブに 2,000 人が集まった。「歌には力があるなあと思いました」

●10/14　義援金が集まったため、女川町にトレーラーハウスを寄贈。これを受けてユニセフからさらに2棟、寄贈があったそう。

●2012　3/11　復興支援コンサート「あの日を忘れない 2012」 松山千春さん、伊勢昭三さんとともに。

●6/15 「なかむらまさとしジュニアスポーツ復興助成金」を女川のスポーツ少年団に寄贈。「ジュニアのバスケットチームは、全国で 3 位になるほどの実力なんですよ。僕は地元で 6 年間バスケットをやっていましたが、最高でも県内のベスト 8 でした・・・」
「子どもたちの笑顔・元気には救われています。元気を出してもらおうと行っているのに、逆に元気をもらう。前に進む力をプレーで見せてくれるんです」

●7/9　松島でカキの養殖をしている同級生を訪ねてコンサート。

●8/2　NHK「花は咲くスペシャル」ロケで陸前高田の奇跡の一本松、吉田正子さんの希望の庭などを訪問。「花はすごい。今は死んだふりをしているけれど、春になると芽を出し、花を咲かせる生命力があるんだから」

今でも「地元の人間」という意識が強いという中村さん。チリ地震が起きたとき、津波を避けるために 2 階へ避難した記憶があるそうです。「そこで生まれ育ったという責任があるし、長丁場になるけれど頑張って支えていこう」と決意したことを語ってくれました。

参加者からの質問に答えるコーナーでは、「離れているわたしたちに今一番必要な支援は？」という質問に、「『忘れない』という作業をしてほしい」と返答。「仙台で牛タン食べて泊って帰るだけでも、お金が落ちて復興につながるんです。生き残った人は皆ドラマを持っているから、会話に飢えている人の話を聞いてあげるだけでもいい。『自分だったら何ができるのか？』自問自答してみて、お金、アクション、何でもいいから、自分にできることをしてほしいです」。参加者の心に響く、強いメッセージをくれました。

会場には県内に避難している被災者の方もいて、中村さんの話に涙ぐむシーンも。「再建はお金と時間があればできるけれど『心の傷』は復興が難しい。歌を歌うことで一瞬でも忘れられるなら、これからもいろんな場所で歌って、語っていきたい」。

ここで、中村雅俊さんが 30 年ほど長きにわたりイメージキャラクターを務める全労済の、長野県本部長・関政人さんが登場。中村さんに花束を贈呈し感謝を述べられるとともに、大震災以降の全労済の活動についてお話されました。

全労済として、被災した自治体に総額 1 億 1000 万円の支援金を贈ったり、緊急募金活動で寄せられた 1124 万円を日本赤十字社などに寄付したり、防災・減災活動をしている団体に総額 1000 万円助成したり。また、被災した組合員へ共済金やお見舞い金を 1215 億円、長野県では延べ 1200 件、2 億 6400 万円お支払いし、生活再建にお役立ていただいていること。また今回のようなチャリティコンサートやイベントの開催、防災・減災への取り組み強化など、さまざまな社会貢献活動の内容をお知らせくださいました。

第 2 部の中村雅俊さんのアコースティックライブでは、全部で 9 曲を披露。懐かしい曲から新しい曲まで、間にはさまれる軽やかなトークで会場が一体となり、和やかで楽しいあっという間の約 1 時間でした。

最後に、チャリティの募金にご協力いただいた方にプレゼントが当たる抽選会。坂ちゃんの軽快なトークとともに、中村雅俊さんグッズ、SBCずくだせえぶりでいグッズなどが、総計 50 名様に当たりました！

「震災の記憶はどうしても薄れてきています。でもこれからも継続して関わってかなきゃ、とあらためて思いました。歌も思ったよりたくさん歌ってくれたし、今日は本当に来てよかったです！」長野市のゆかりさんは、卓上カレンダーも当たって大満足でお帰りになりました。